



株主の皆さまとのコミュニケーションの場 第92回定時株主総会を開催

定時株主総会は、株主の皆さまと経営者が直接コミュニケーションをとることができる貴重な機会と考えております。

このため、より多くの株主の皆さまにご来場いただけるよう、2016年6月の第92回定時株主総会の開催場所について、従来の社内会議室から交通の利便性の高い東京・日比谷の帝国ホテル東京に変更いたしました。

出席者数は107名と、昨年74名の約1.5倍の株主の皆さまにご出席いただくことができ、また、多くのご意見・ご質問を頂戴することができました。

今後も株主の皆さまに当社へのご理解を深め、よりいっそうご支援いただけるよう、コミュニケーション強化に努めてまいります。



▲第92回定時株主総会の様子



〒104-8506 東京都中央区明石町8の1 聖路加タワー
TEL.03-6367-7041 FAX.03-5565-5102
<http://www.sanki.co.jp/>



環境に配慮した
「ベジタブルオイルインキ」を
使用しています。



見やすいユニバーサル
デザインフォントを
採用しています。

株主通信

第2四半期決算のご報告

[2017年3月期] 2016年4月1日～2016年9月30日



三機工業株式会社



代表取締役社長

長谷川 勉

株主の皆さまにおかれましては、日頃より当社グループに対し一方ならぬご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。2017年3月期第2四半期決算のご報告にあたり一言ご挨拶させていただきます。

当社グループは、創立100周年を迎える10年後の2025年度に向けて長期ビジョン「**Century 2025**」を策定し、そのファーストステップとなる3か年中期経営計画「**Century 2025**」Phase1」を当期からスタートしました。本計画においては、長期ビジョンが目指すもっと「選ばれる会社」となるための「質」を高める3年間と位置づけ、変化に対応できる土台として技術と英知を磨き、人を育てる取り組みを進めてまいります。

また、この「**Century 2025**」Phase1」に基づき、当社保有資産を対象とした大和地区再開発計画（STeP計画）もスタートさせております。

上半期の国内経済は、円高や新興国経済の減速などを背景とした景気下振れへの警戒感から力強さは欠くものの、緩やかな持ち直し基調となりました。建設投資においては、公共投資に下げ止まりが見られた一方、民間設備投資は先行きの不透明感から横ばいで推移しました。

そうしたなかで当社グループの営業状況は、受注高が前年同期を下回り、売上高・利益も減少しましたが、工事採算の利益は改善となりました。繰越受注高については大きく増加しており、下半期はこれを着実に売上高につなげていくことで、通期業績目標の達成を目指してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、引き続き当社グループ事業へのご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2016年12月

上半期のご報告と通期の見通し

3か年中期経営計画「**Century 2025**」Phase1」を始動した当期は、同計画に掲げる「コア事業の強化」「成長戦略の推進」「三機ブランドの向上」の3つの重点施策に基づき、取り組みを進めています。当上半期の営業状況は、建築設備事業、機械システム事業および環境システム事業のいずれも大型物件受注の一巡化等により受注が減少し、また工事進捗の遅れなどから前年同期と比較して減収・減益となりました。

一方、原価管理の徹底に加え作業効率の向上などにより、売上総利益率は11.6%と前年同期の10.7%と比べ0.9ポイント改善しております。

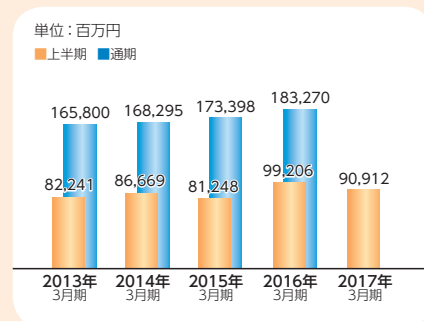
事業別の状況を振り返ると、主力の建築設備事業は、ビル空調衛生の工事進捗の遅れが響き、売上高が減少しましたが、機械システム事業は、前期からの繰越工事の増加により増収となりました。

当第2四半期末現在の繰越受注高は、当期首から205億7千1百万円増加し、1,269億6千万円に積み上がっております。これを売上高の増加につなげるべくスムーズな工事進行に努め、同時にさらなる利益改善への取り組みを進めてまいります。

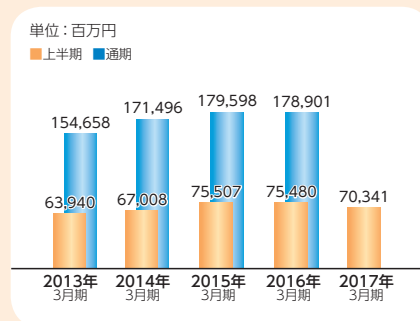
通期の連結業績については、期初の予想数値を変更せず、受注高1,830億円（前期比0.1%減）、売上高1,850億円（同3.4%増）、営業利益65億円（同0.1%減）、経常利益70億円（同14.0%減）、親会社株主に帰属する当期純利益49億円（同8.0%減）を見込んでおります。

また、以上の結果、2016年度の中間配当につきましては、前年度の9円から10円へと変更させていただいております。

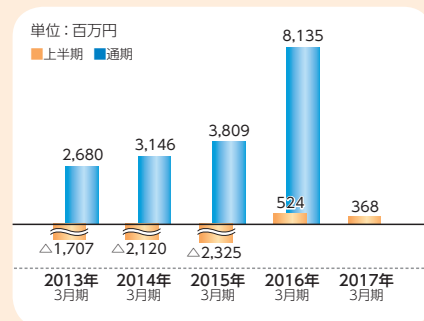
●受注高



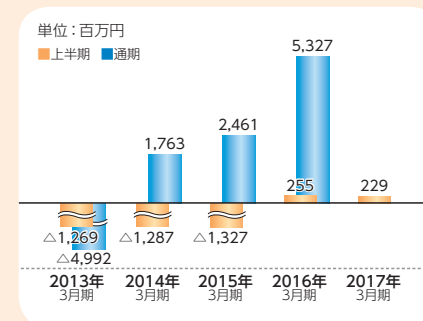
●売上高



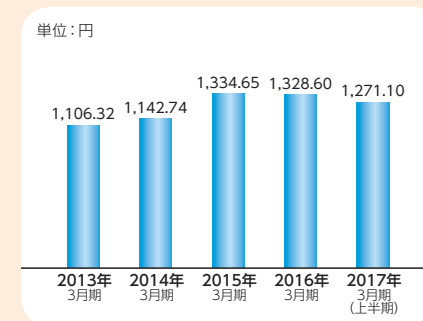
●経常損益



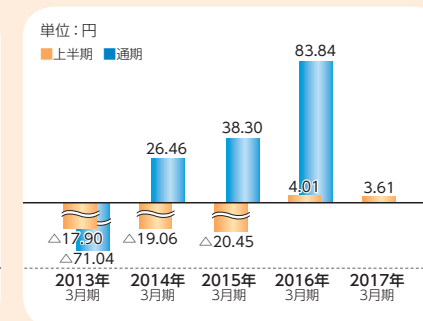
●親会社株主に帰属する四半期(当期)純損益



●1株当たり純資産額



●1株当たり四半期(当期)純損益



安心・安全で快適な学習環境を支える技術

総合エンジニアリングによる社会価値の創造は、教育の現場にも広がっています。

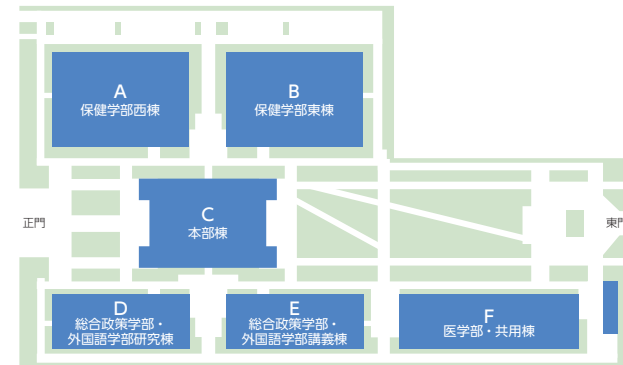
当社は「学びの場」の各種設備に求められる多様なソリューションを提供し、優れた人材の育成に貢献します。

施工例

「杏林大学 井の頭キャンパス」全棟の設備を担当

2016年1月、東京都三鷹市に杏林大学井の頭キャンパスが竣工しました。八王子キャンパスから3学部と大学院研究科を移転し、近接する三鷹キャンパスとの教育連携を図るとともに、通学の利便性を高めることが目的です。

「安心・安全な環境で学業に専念できる建物」を施工テーマに、全棟免震構造で建設された井の頭キャンパスは、当社が設備を一括担当しました。八王子キャンパスにおいても保守・保全を長年担当し、同大学の設備を熟知した当社ならではの高度な技術と、LCE（Life Cycle Engineering）を通じた最適なソリューションを提供し、快適な学習環境を支えています。



施設概要

敷地面積 …………… 約3.47ha

総延べ床面積 …… 約46,500㎡



《設備の特色》

空調設備 B棟

24時間空調が必要な動物実験室や放射線実習室などには、冷温水同時供給が可能な空調システムを導入。自然環境に配慮し、除菌・防臭効果のあるフィルターユニットを通して屋外に排気しています。

衛生設備 B棟

受水槽機械室にて、各棟に上水と雑用水を給水。雑用水は雨水を有効活用しています。地震発生時は受水槽が自動的にバルブを遮断し、配管破損を防止。90トンもの飲み水を確保できます。また排水処理は、実験施設からの特殊排水にも対応し、pH調整や滅菌により安全性を担保しています。

電気設備 A棟

キャンパス全体の配電拠点として、各棟への送電を担っています。照明器具は全館LED化。大規模災害の発生など非常時には、屋上に設置した非常用発電機と敷地内の備蓄燃料により、3日程度の電力供給が可能です。

厨房設備 F棟

1,000名分ものオーダーに対応し、安心・安全な食事を提供するために、衛生的かつ効率的な作業環境を構築しています。

統合ネットワーク設備 D棟

中央監視室で各種設備の運転・警報を一元管理。監視および照明制御を守衛室からも操作可能とし、徹底した安全管理体制を敷いています。

情報通信設備 F棟

サーバールームは、電子機器に悪影響を及ぼす金属結晶（ウイスカ）への対策を実施。電話・LAN共通の統合配線方式を採用し、安定したネットワーク環境を整備しています。



▲受水槽機械室



▲排水処理設備



▲厨房設備



▲サーバールーム

施工担当者の声

VOICE



本キャンパスは当社グループが設備全般を一括担当したため、グループ内連携により各設備の技術力を融合した総合エンジニアリング力が発揮されています。設備間の意思疎通、効率的な現場運営によりお客さまに最適なシステムを提供できたと自負していますが、今後も長期的アフターフォローに努め、快適環境を支えてまいります。

〔現場所長〕

東京支社空調衛生技術1部 技術3課長

宮本 健嗣

地域の生活インフラを守り続けていくために

ふだん目に見えないところで地域社会を支えている生活インフラ。下水処理施設もその一つです。
当社は、災害に強く環境にも配慮した、未来志向型の下水処理施設を提案します。

「南蒲生浄化センター」の災害復旧・復興事業

宮城県仙台市の南蒲生浄化センターは、市内で発生する汚水の約7割を処理する東北地方最大の下水処理施設です。当社の施工は、同センターが稼働を開始した1964年頃から始まりました。その後約50年を経た2011年3月に発生した東日本大震災により、水処理施設を中心に甚大な被害を受けた際は、震災発生直後から復旧事業に参画し、「新水処理施設」の反応タンク設備と最終沈殿池設備の施工を担当しました。

反応タンクは、微生物が下水中の有機物を分解処理する設備です。当社は、超微細気泡散気装置「エアロウイング」の導入により、送風機の消費電力の大幅削減による省エネルギー化、間欠運転を可能としたことによる運転管理性の向上、および長寿命化を実現しました。そして、下水処理後に発生する污泥の処理設備である最終沈殿池には、掻き寄せ能力と耐震性に優れ維持管理が容易な「モノレール式污泥掻寄機」を導入し、地震に強い施設づくりを推進しました。

また水処理機械設備以外に、施設全体の空調設備・衛生設備・消火設備の施工も当社が担当し、総合エンジニアリング力を発揮することで、施設の全体最適化を図っています。

今後も震災復興に向けたさらなる支援を継続すべく、グループの総合力を活かした強固なサポート体制を構築していきます。



▲外観



◀「エアロウイング」。槽形状に合わせ均等なパネルレイアウトが可能。



▲最終沈殿池



▲モノレール式污泥掻寄機

「食」の安心・安全をサポートする新製品を発表

当社の技術は、さまざまな形で「食」の安心・安全に貢献しています。
ここでは、2016年9月開催の「フードファクトリー2016 食品工場改善設備展」に出展した2つの新製品を紹介します。

「食」の安心・安全に貢献する新製品

●異物がみえる「マルチカラーLEDまな板」

「食」の安心・安全がクローズアップされる今、食品への異物混入は大きな社会問題の一つとなっています。当社の機械システム事業部が開発した「マルチカラーLEDまな板」は、調理中の異物発見に効果を発揮する、「食」への信頼を高めるツールとしての商品です。

最大5,000ルクスの高照度LEDが多彩な発光色で食材を照らし、食材に付着した異物（魚介類の小骨や卵のカラ、寄生虫等）の除去作業を容易にするほか、傷や形状確認にも役立ちます。材質はポリエチレン製で、調理器具として不可欠な防水機能を備えており、オプションとして抗菌仕様も用意しています。

今後は食品加工業界やレストラン・飲食チェーン等の今までにない市場に展開し、新たな顧客の獲得を図っていきます。



「白色LED
搭載まな板」▶

▲「マルチカラーLEDまな板」

●身体と食品にやさしい 「チルドフードコンベヤー チルドスタッカー付ー」

手作業によるチルド食品（惣菜・弁当）の盛付作業は、従来は品質維持のために盛付室全体を10℃以下にする必要があり、従業員の体に負担がかかる環境となっていました。今回、食品施設に精通した食品機設統括室が中心となり、当社が保有する空調技術と搬送技術を融合して、低温環境を盛付ライン上に作り出すことができる「チルドフードコンベヤー チルドスタッカー付ー」を開発し、この問題を解決しました。20℃の盛付室内でも、盛付を行うコンベヤー面はもちろん、付属のチルドスタッカーの使用により仕掛品（盛付前）の食品も10℃以下に低温維持しておくことができます。

今後は食品業界を中心に幅広く展開していく予定です。



◀「チルドフードコンベヤー
チルドスタッカー付ー」

財務状況

(単位：百万円)

科 目	前期末 (2016年3月31日現在)	当第2四半期末 (2016年9月30日現在)
流動資産	115,491	95,581
固定資産	53,931	49,851
資産合計	169,423	145,433
流動負債	72,863	53,359
固定負債	12,001	11,148
負債合計	84,865	64,507
純資産合計	84,557	80,925
負債純資産合計	169,423	145,433

POINT

●資産

資産は、前期末と比べ23,989百万円（14.2%）減少し、145,433百万円となりました。これは主に当社グループの売上高は期末に集中するため、各四半期末の売上債権は前期末と比べて減少するという季節的変動によるものであります。

●負債

負債は、前期末と比べ20,357百万円（24.0%）減少し、64,507百万円となりました。これは主に資産と同様の季節的変動により仕入債務が減少したことによるものであります。

●純資産

純資産は、前期末と比べ3,631百万円（4.3%）減少し、80,925百万円となりました。これは主に投資有価証券の時価の下落により、その他有価証券評価差額金が減少したことによるものであります。

経営成績

(単位：百万円)

科 目	前第2四半期（累計） (2015年4月1日から2015年9月30日まで)	当第2四半期（累計） (2016年4月1日から2016年9月30日まで)
売上高	75,480	70,341
営業利益	176	57
経常利益	524	368
親会社株主に帰属する四半期純利益	255	229

POINT

●売上高

売上高は、70,341百万円となり、前年同期と比較して5,139百万円（6.8%）の減収となりました。これは主に当第2四半期中の工事の出来高が、前年同期と比較して減少したことによるものであります。

●営業利益

営業利益は、設備工事業において原価管理の徹底や作業効率の向上に努めましたが、売上高の減少による利益の減少や退職給付費用の増加による販売費及び一般管理費の増加といった減益要因を吸収しきれず、前年同期と比較して119百万円（67.6%）減益の57百万円となりました。

キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)

科 目	前第2四半期（累計） (2015年4月1日から2015年9月30日まで)	当第2四半期（累計） (2016年4月1日から2016年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,330	3,502
投資活動によるキャッシュ・フロー	5,599	△397
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,010	△1,573
現金及び現金同等物の四半期末残高	26,877	33,933

POINT

●営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、主に売上債権の回収が進んだことにより、3,502百万円の増加となりました。

●投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、主に投資有価証券の取得により、397百万円の減少となりました。

●財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、主に配当金の支払いにより、1,573百万円の減少となりました。

会社概要

会 社 名 三機工業株式会社
英文社名 SANKI ENGINEERING CO., LTD.
創 立 1925年4月22日
資 本 金 81億518万円（2016年9月30日現在）
事業内容 建築設備事業、プラント設備事業、不動産事業
従業員数 連結 2,353名 個別 1,959名
（2016年9月30日現在）

事業所一覧（2016年9月30日現在）

支 社 3ヶ所
支 店 15ヶ所
研 究 所 1ヶ所

連結子会社（2016年9月30日現在）

三機テクノサポート株式会社
三機産業設備株式会社
三機化工建設株式会社
三機環境サービス株式会社
親友サービス株式会社
アクアコンサルト社（オーストリア）
タイ三機エンジニアリング&
コンストラクション社（タイ）



役員

（2016年9月30日現在）

○取締役および監査役	○執行役員
代表取締役 梶浦 卓一	社長執行役員 長谷川 勉
取締役 長谷川 勉	専務執行役員 玖村 信夫
取締役 玖村 信夫	常務執行役員 藤井 日出海
取締役 藤井 日出海	常務執行役員 三石 栄司
取締役 本松 卓	常務執行役員 齊藤 一男
取締役 川辺 善生	常務執行役員 白木 博之
取締役 山本 幸央	常務執行役員 渡邊 純次
取締役 西尾 弘樹	常務執行役員 本松 卓
取締役 額賀 信	常務執行役員 杉浦 繁
常勤監査役 古村 昌人	常務執行役員 國廣 正年
常勤監査役 福井 博俊	常務執行役員 井上 忠昭
監査役 井口 武雄	常務執行役員 石田 博一
監査役 則定 衛	常務執行役員 岡元 正治
	常務執行役員 名取 秀雄
	常務執行役員 古川 松雄
	常務執行役員 宮崎 和夫
	常務執行役員 鈴木 茂
	常務執行役員 福田 順一
	常務執行役員 富田 弘明
	常務執行役員 朝倉 和昭
	常務執行役員 工藤 正之
	常務執行役員 山口 理
	常務執行役員 矢野 憲一
	常務執行役員 渡邊 重人
	常務執行役員 川辺 善生
	常務執行役員 泉 和男
	常務執行役員 穴口 常明
	常務執行役員 苅部 郁生
	常務執行役員 飯嶋 和明
	常務執行役員 太田 伸祐

株式の状況

（2016年9月30日現在）

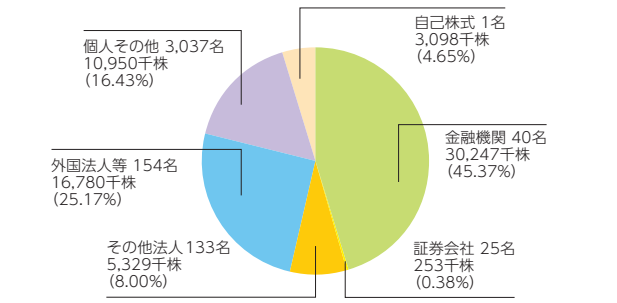
発行可能株式総数	192,945,000株
発行済株式総数	66,661,156株
株主数	3,390名

大株主

株 主 名	持株数(千株)	持株比率(%)
三井生命保険株式会社	6,300	9.91
明治安田生命保険相互会社	5,700	8.97
日本生命保険相互会社	4,672	7.35
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,013	4.74
三機共栄会	2,624	4.13
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,874	2.95
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505223	1,709	2.69
ジェービー モルガン チェース バンク 380684	1,525	2.40
シービーエヌワイ ディエフエイ インターナショナル スモール キャップ バリュ어 ポートフォリオ	1,294	2.04
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505103	1,184	1.86

(注1) 当社は自己株式3,098千株を保有しておりますが、上記大株主からは除いております。
また、持株比率は自己株式を除いて計算しております。
(注2) 当社として、当事業年度末における実質所有株式数の確認が可能な株主を対象に記載
しております。

所有者別株式分布状況（2016年9月30日現在）



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
株主確定基準日	(1) 定時株主総会 3月31日 (2) 期 末 配 当 金 3月31日 (3) 中 間 配 当 金 9月30日 その他必要あるときは、あらかじめ公告して基準日を定めております。
公告掲載方法	電子公告の方法により行います。ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載いたします。 (当社ホームページ http://www.sanki.co.jp に掲載します。)
単元株式数	100株
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店（コンサルティングオフィス・コンサルブラザを除く）で行っております。

住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主さまの口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主さまは、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。